

企画構想学科と社会・企業

軽部 政治 | Seiji KARUBE

一般的な大学教育では、デザイナーはデザイン、建築家は建築という専門的技能を磨くことが先行し、これらをビジネスに転用するとどういった利用価値があるのか?という分野が抜け落ちていたように思われる。クリエイティブ全般およびエンターテインメントやアートの世界において、このビジネスへの転用に関する分野を学ぶことは今後必要不可欠になっていくものと思われる。

実社会におけるクライアントやユーザーのニーズ、周辺の経済環境などを理解した上で、最終的にどのようにしてプロダクトあるいはプロジェクトをかたちにしていくか?価値を持たせるか?というビジネスへの転用=プロデュース能力が今の世の中に必要とされていると感じ、クリエイティブとビジネスを両面から理解して、プロデュースすることのできる人材を育成したいと考えたことが企画構想学科を立ち上げるに至った経緯である。

一方で私自身、長年会社経営をする中で実感していることであり、周辺の経営者からもよく耳にする話の一つとして、専門分野を学んで入社した新入社員の中で、自分の専門とは直接的でない部署に配属されたり、段階的に所属が変わっていくような環境におかれた途端にモチベーションが落ちる、ポテンシャルが落ちる、といった傾向が非常に多く見受けられることがある。これは自分が持っている専門的な技能とは別にその環境の中で何ができるのか?ということを考える状況判断力を持ち合わせたバランスのよい人材が年々少なくなってきたということでもないと切実に感じている。

そのような状況の中で企画構想学科はまさにこの状況判断力というものを重要視し、それぞれの環境に応じて物事をフレキシブルに考えられる企画脳、柔軟性を持ったアイデアを生み出すための思考のベースを作っていくことに力

を入れており、それは現代の企業に求められている一番大事な素養なのではないかと考える。

一方、状況判断力と同じくらい大事な素養だと考えているのが対人感受性であり、これもまたなかなか学問で身につけられるものではないが、人を思いやる、人を見る、本質を見抜く、その上で相手がどう感じるのか?ということを繰り返し体験し理解することで磨かれていくものと考えている。

一般社会の方々とは在学時から繋がることにより、とにかくFace to Faceでコミュニケーションを図る中で相手が望んでいることを見抜く力を養う。

これはすごく漠然としたキーワードであるが“人を慮る力”というものを繰り返し教え、本当にそれが実践できているかどうかを演習を通した実社会の中で磨いていく。

他学科に比べ演習が非常に多いのは、こうして人を慮る力を磨くためにできるだけ多くの人と在学中に会うことが大変重要だと考えているためである。

企画構想学科で身につけたプロデュース能力、状況判断力、対人感受性はどのようなジャンルの企業や活動にも必要とされるものと確信するので、企画構想学科卒の銀行員や公務員、エンジニアや営業など日本中のあらゆるジャンルでフレキシブルに活躍していってくれること大いに期待する。

[執筆者]

軽部 政治

Seiji KARUBE

企画構想学科

Department of project Design, School of Design

教授

Professor